

久留米大学では、受診時に患者さんから取得された診療情報等を使用して下記の研究を行っています。本研究で使用される診療情報等は他機関への提供は行いません。

なお、下記研究は久留米大学の倫理委員会にて「社会的に重要性が高い研究」等の特段の理由が認められ、研究機関長の承認を得て実施しています。当該診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡下さい。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。

【研究課題名】重症肺炎患者における筋肉量変化の検討

【診療情報の対象者（研究対象者）】

- 1）受診期間：西暦2020年4月から西暦2021年9月までの間に受診
- 2）受診科：久留米大学病院高度救命救急センター
- 3）対象疾患名：重症肺炎（COVID-19の患者さんを含む）と診断された方

【診療情報等の項目】

病歴、診断名、年齢、性別、入院日、既往歴、CT画像、徒手筋力測定等

【研究目的】

重症肺炎で入院された患者さんは、人工呼吸器離脱後に入院前は日常生活動作が自立されていたにも関わらず、四肢の麻痺や脱力を伴い、寝返りも自力で行えない全身の筋力低下を認めることがあります。このような筋力低下は、集中治療室滞在期間中に引き起こされ、その後の入院生活や退院後の日常生活および生活の質にも関わるため、早期からのリハビリテーションが重要となります。一方、筋肉量はあらゆる疾患の転帰や予後に関すると言われてはいますが、重症肺炎（COVID-19の患者さんを含む）に対する筋肉量評価は研究が進んでいません。

そこで、重症肺炎（COVID-19の患者さんを含む）における集中治療室滞在中の筋肉量を評価すること、さらに重症肺炎の患者さんに対するリハビリテーションの効果を筋肉量で評価することにより、今後のリハビリテーションに役立てたいと思います。

【研究（利用）期間】

研究実施許可日から西暦2026年6月まで

【利益相反に関する事項】

本研究は特定企業からの資金援助はないため利益相反は発生しません。

【問い合わせ先】

研究責任者（使用する情報の管理責任者）：久留米大学病院リハビリテーション部 広田桂介

問い合わせ担当者：久留米大学病院リハビリテーション部 広田桂介

電話：0942-31-7645（内線5480）

E-mail: hirota_keisuke@kurume-u.ac.jp